



学校教育では視覚しょうがいは、点字を常用する「盲」と、墨字を常用している「弱視」に分けられます。しかし、一口に「盲」「弱視」といっても、人によって見え方や情報の扱いは様々です。ぜひ、本人と確認の上、双方にとって適切な対応の仕方を確認していただければと思います。

※触覚でとらえる文字である「点字」に対し、視覚でとらえる文字を「墨字」といいます。

第1章 私たちができる教育的配慮

1) 初回の講義の実施に向けて

視覚しょうがい学生は、読むこと、書くこと、いくつかの視覚情報を見比べたりすることに時間を要します。

●教科書の購入

紙資料の状態では情報を把握することが難しいことがあり、時間も要するため、紙資料をPDFデータ、テキスト、点字ベースで利用することがあります。紙資料を変換する作業が必要となりますので、使用する教科書などの情報を早めにお知らせください。(必要な書籍は学生個人が準備をしますが、テキストやPDFなどの電子媒体があるようでしたら、ご提供をお願いします。)

●講義資料の事前提供

授業の解説を聞きながらスライドの情報を目で確認する際、瞬時に情報の箇所を特定することに難しさがあります。事前にスライドを確認しておくことで、授業時にどのスライドの説明をしているのか特定をすることが容易になります。また、教室前方でのスクリーン表示ではスライドの内容を確認することができなかつたり、確認前にスライドが切り替わったりすることもあるため、手元で資料を確認しながら受講できる状態が望ましいです。

講義資料(配布資料・スライド資料等)は、事前に目を通すことによる授業理解へ効果が大きく、電子データ等での講義資料の本人への事前提供についてご協力をお願いします。

スライド等の資料の作り方

本人が希望する形態をご確認ください。

- 文字の大きさ ●文字フォント ●文字の色
- 文字色と背景色のコントラストをはっきりさせる

【文字と背景との組み合わせの配慮点】

〈暗い色の背景の場合〉

文字は明るい色を使い、暗い色は避ける

▶▶▶▶▶▶ 白と黄色が最適

(明るい水色、明るいオレンジも可)

〈淡い色の背景の場合〉

文字は濃い色を使い、淡い色は避ける

▶▶▶▶▶▶ 黒と青色が最適

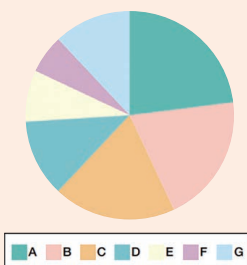
背景と文字のコントラストをはっきりさせる

推奨例

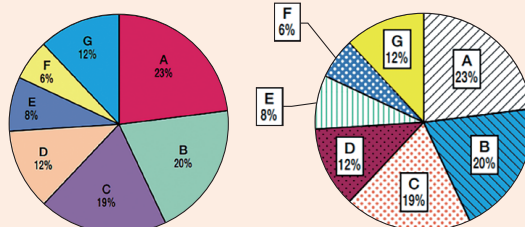


【図や表を使用する場合、色分けだけではなく、数値やラベルを入れる。】

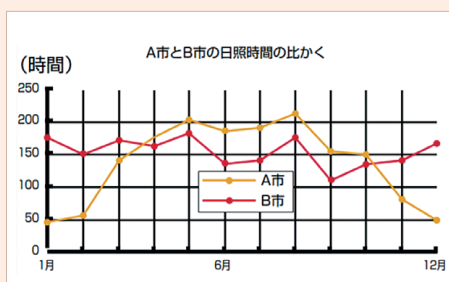
×わかりにくい例



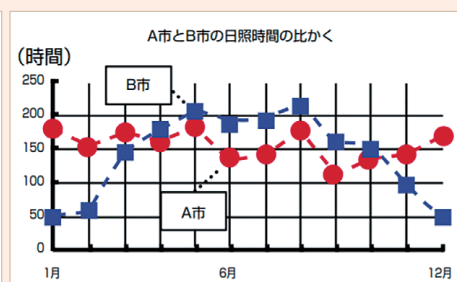
○わかりやすい例



×わかりにくい例



○わかりやすい例



●講義場所の変更の可能性

(野外や他施設での活動を伴う内容があるか、遠方に行く予定があるか)

初めて行く場所の場合、どのように移動するか、目的地まで一人でたどり着けるか検討が必要な場合があります。講義室の変更や大学の敷地外での実施がある場合、事前に実施場所をお知らせください。

2) 講義中の配慮について

●指示語の使用は極力控える

「ここ」「あれ」「そこ」などの指示語の使用を避けて、具体的に何を指しているかが理解できるように話してください。

●発言を求める際の留意点

アイコンタクトや指さしでは、自分が指されたことに気が付かない場合があります。本人に確認の上、名前を呼んで指名などの対応をしてください。指示された箇所を読み上げるということを即座に行うのは難しく、時間を要します。

※オンライン授業においては、質疑の反応に時間を要する場合があります。パソコンやタブレット上のカメラやマイクボタンを操作することに時間を要します。

3) 試験時の配慮について

●試験時間の延長

視覚しよがいの程度によって、問題文の読み取りや解答記入に時間がかかるため試験時間の延長をお願いすることがあります。

●解答方法の変更

視覚しよがいの程度によって、解答用紙のサイズ変更や解答方法の変更(例：手書きからパソコン入力に変更)をお願いすることがあります。また、拡大読書器等の補助具の使用が必要な場合もあります。

第2章 講義の形態別による配慮

1) 対面授業

●座席位置の配慮

資料の内容把握や機材の使用のため、以下の座席を希望することがあります。

- ・スクリーンの近く。
- ・電源タップの近く。(拡大読書器など、電源を使用する機材を使用する可能性があるため。)
- ・出入り口の近く。(自分がどこにいるのか分かりやすい、移動がしやすい。)

2) リアルタイムでのオンライン授業

●指示語の使用は極力控える

「ここ」「あれ」「そこ」などの指示語の使用を避けて、具体的に何を指しているかが理解できるように話してください。

●カメラオフでの受講への配慮

資料を見るためにパソコン画面に顔を近づけていることが多いため、カメラをオフにしての参加をお願いすることがあります。

●反応へのタイムラグへの配慮

複数のデバイスを使用することがあります。また、パソコンやタブレット上のカメラやマイクボタンを操作することに時間を要します。オンライン授業においては、質疑の反応に時間を要する場合がありますので、少し待っていただくようお願いします。(例：指名後の回答、チャットへの入力等。)



- (左から) ①タブレット：ノートをとる
②タブレット：資料を見る
③PC：授業に参加する(授業音声を聞く)

<問い合わせ先> 宮城教育大学 しょうがい学生支援室

Tel / Fax : 022-214-3651 E-mail : csd@grp.miyakyo-u.ac.jp